

栃木県立学悠館高等学校 JRC(青少年赤十字)部

高校生ボランティア・アワード2019

「わ」をつなぐ ～共存から共生へ～

活動概要 防災講座を10年以上継続して実施している
得られた成果 防災活動を通して他団体との関係が深まった

被災した人たちにとって少しでも居心地のいい「避難所」をめざして、自分たちで運営体験をしたり、部員皆で救急法を学び、広める活動をしている。

災害救済募金活動もおこなっている。

防災講座や防災研修は、東日本大震災より前に、自校が避難所に指定されていると気付いた部員の発案より始めた。部員だけでなく地域の自治会や他団体の方と連携し、継続して実施している。

その実績を評価していただき、

平成30年度は国の事業(『**学校安全総合支援事業**』)として地域の高校生と一緒に避難所運営について考える活動を中心となって実施した。

平成31年3月には地元新聞社主催の**防災シンポジウム**にて、県内から集まった1000人もの方々の前でこれまでの活動報告もさせていただいた。

自分たちだけで始めた活動が、他団体との絆を年々強めながら、今では多角的に各方面で大きく広がり、お互いの顔がわかる関係を築くことができた。

「自助」から「共助」へ

活動の目的

<防災活動>

～災害が起きたときに備えて～

- まずは**自分**の身を守るために、**自分**が行動するために～
 - ・ 避難所とはどういうところか？何が起きるか？
 - ・ 救急法、AEDの使い方、炊出しについて

学ぶ

- 地域の方とともに

- ・ 「災害にも強いまち」を目指したい
- ・ 私たちの活動を通して防災について考えるきっかけにしてほしい

広げる

～被災した方々のために～

- ・ じぶんたちができることをしたい(募金など)

できることをする

皆が**和**やかでいられるように
対話を大切にして
自分たちで**輪**をひろげていきたい

防災活動の「輪」をひろげる

活動の詳細(実施内容/成果・実績など)

- 学校安全総合支援事業の拠点校に…

「高校生による積極的な避難所運営の実践」

栃木地区の高校生とともに、避難所運営の際に自分たちができることについて考えました。①②での体験をもとに、③では近隣住民の方を招いて、スタッフとして避難所運営の体験をしました。

- ① HUG(避難所運営ゲーム)体験講座 [7月24日(火)]



- ② 講演会・炊き出し体験講座 [9月22日(土)]



- ③ 避難所体験・炊きだしの体験、AED講習会 [12月15日(土)]



- 防災・減災プロジェクトのシンポジウムで活動報告

「地域と連携した防災への取組み」

地元の新聞社主催の、とちぎ防災・減災プロジェクトシンポジウム「防災・減災を考える～地域防災力の向上に向けて～」にて、活動報告をしました。1,000人を超える来場者の方に楽しんでいただきました。



「輪」をつないで、「輪」を広げよう！ ～高校生の私たちが心**和**み癒やされる**避難所**をめざします～

昨年指定を受けて栃木地区の高校生が集まって取り組んだ「平成30年度学校安全総合支援事業」とおして、活動ごとに「ふりかえり」を行い、消極的な分野・課題が見えてきました。

★積極的な意見が多いもの

避難者の名簿作り、救援物資の搬入・整理・管理・配付、避難所の掃除、調理補助、こどもの遊び相手

★消極的な傾向が見られたもの

避難者の受入業務、救援物資の配付、避難所の掃除、高齢者や障害者の介助、高齢者の話し相手

初めて運営スタッフを体験した他校生徒からは、「初めての経験に戸惑ったが、ぜひもう一度やってみたい」、「防災意識が高まった」という声や、全校生徒を前に活動した内容の報告会をした参加者もいました。私たちの防災活動が、同世代の高校生の輪として広がりました。

この経験を得て、私たちはこれから

- ① より過ごしやすい高校生が考える避難所運営
- ② 災害弱者の方の介助方法、リラクゼーション等の研修
- ③ 「**高校生が運営する避難所**」体験を、他校の高校生に体験してもらう機会をつくる。

の3つをめざして活動します。

学悠館高校JRC部から発信する「輪」をつなぎ、広げて行きたいと思います。



活動団体プロフィール

栃木県立学悠館高校は定時制です。JRC(青少年赤十字)部は、設立当初より活動を続けてきており、今年で15年目となります。創部3年目の平成19年度から防災活動に取り組みはじめ、平成20～21年度は日本赤十字社本社から「青少年赤十字モデル校」の指定を受けることで、より本格的な活動を進められるようになりました。また、平成23年には、その活動が評価され、第16回防災まちづくり大賞・消防庁長官賞を受賞しました。昨年度は国の事業(学校安全総合支援事業)として地域の高校生と一緒に避難所運営について考える活動を実施し、更に防災のシンポジウムでも活動報告をしました。現在、部員たちの気づきの中で、活動は周辺地域住民も巻き込みながら大きく発展してきています。